



能代高校東京同窓会会報 第 18 号

奮え松陵、我が健児

発行日：平成 20 年 9 月 1 日
発行人：能代高校東京同窓会
責任者：太田 勝治
編集：会報制作委員会
印刷：大森太田印刷 (有)



能代南高校の時代に、体操の鍋谷鉄巳、小野喬のヘルシンキ・オリンピック (1952 年) 出場の功績を讃えて記念碑が建立された。後ろの建物は校舎と別棟の図書館。樽子山校舎の東側前庭にて、1974 年撮影。この地から巣立った偉大な先輩に敬意を表す。写真提供／袴田邦夫 (第 45 期)

平成 20 年度 能代高校東京同窓会総会のご案内

【日時】平成 20 年 10 月 4 日 (土)

□受付 12:00 ~

□総会 12:20 ~ 13:00

□講演会 13:00 ~ 13:30

講師 泉 牧子 (能高第 48 期)

JA 秋田やまもと

宮農生活部ふれあい課 課長

□懇親会 13:00 ~ 16:00

【場所】アルカディア市ヶ谷 5 階 大雪の間 (詳細は 8 ページに掲載)

【年会費】3,000 円 (1 世帯)

*お振込、または当日受付にて受領します。

【懇親会費】男性 7,000 円 女性 6,000 円

*割引制度や特例があります。詳細は 8 ページをご覧ください。

【出欠】同封のはがきに記入して 9 月 19 日 (金) までに投函して下さい。

輝く偉業を成し遂げた先輩

能代高校東京同窓会会長 太田 勝治

今年も会報編集委員会が中心となって松陵第 18 号が無事発行されました。昨年もそうでしたが、今年も同窓生からの素晴らしい記事がとてもしん寄せられて、編集委員会はうれしい悲鳴を上げ続けたようです。今回はその中で特に印象に残った記事を取り上げてみました。

この 6 月に、スキーヤーで登山家の三浦雄一郎さんが 70 歳でエレベースト登頂に成功したという大ニュースがありました。日本だけではなくて世界中から喝采が贈られました。三浦さんはこの日のために持病の心臓病を克服しながら長い間登頂訓練を繰り返しての快挙でした。実はこの会報 18 号にも偶然ですが、お二人の先輩の輝く偉業の記事が載っていました。お二人共定年を迎えた 60 歳になってからの挑戦です。お一人は 25 期的那須秋男さんの「71 才の挑戦」です。プロのスキーの先生のライセンス取得するまでのことですが、本当にすごいですね。もうお一人は 24 期の山縣輝輔さんです。こちら定年後に再度大学に入学して郷土研究に取り組んでの卒業論文の大作を完成させました。特に山縣さんはよく郷里の方へ行かれていたので、定年後は時間がたっぷりあるから優雅でいいなあと思っていましたが、遊びではなく取材旅行だったのですね。

「ローマは一日にして成らず」のことわざですが、スキーライセンスにしても郷土研究の卒論にしても、年齢には関係なくいくつになってもその気になって諦めずに継続すれば、達成できるものですね。体力、気力、頭脳、信念の四拍子があってこそできるものですね。

お二人の先輩はこれだけでは終わらずに、これからもさらに上を目指して精進し続けることと思います。我々も年を取りすぎるとか、金がないからとか、時間がないから、才能がないからとか「～ない、～ない」と言って自分から先にあきらめずに夢を持って、希望を持って自分なりの成果を少しでもあげたいものです。



東京同窓会の皆様へ

能代高校同窓会会長 田中 仁純

東京同窓会会員の皆様にはご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

過日秋田県南部に甚大な被害をもたらした地震では、故郷への通信も一時不通となり心配された方々も多かったと思われます。能代・山本は大きく揺れましたが、おかげ様で、無事で安心した次第でした。

母校も、井上前校長が卒業式目前に体調をくずされ、心配しましたが、その後の経過も良好ということで、また、後任に山本達行新校長を迎えて順調に推移しています。着任後、同窓会役員会で顔合せをしました。山本校長、青柳教頭共々同窓会員ということで、私たちはこの上なく心強く、盛り上がっています。

山本校長は就任挨拶で、在任中に是非甲子園に行かせたいと申され、その実現に日夜努力しているこのごろですが、ここ 3 年ぐらいで、たしかな手ごたえを感じる試合が多く、平成 7 年以来の夢を結ばせてくれるものと確信しています。

7 月 7 日の秋田魁新報に「教育に新聞を」というキャンペーンで、母校の「校友時報」となつかしい文字を目にしました。「夢と志をはぐくむ学校を目指して」のテーマで 2007 年から実施している Will Project、すなわちインターンシップやライフプランの活動ぶりが紹介されています。3 年目を迎えた今年はさらに充実し、全国的にも注目されているということです。人材豊富な東京同窓会の皆さんからの協力は欠くことのできない大きなファクターであり、後輩の育成のため絶大なご協力をお願いしたいものです。

能代から明るいニュースはなかなか拾いあげることができませんが、地域の優秀な人材が集まる母校のさらなる充実・発展が、長い目で展望すればもつとも確実に地域の発展につながることを確認しながら、同窓会会員相互の研鑽と、母校への協力に邁進しております。東京同窓会の益々の発展をご祈念申し上げます。



6 月の能代高校

能代高等学校校長 山本 達行 第 39 期

東京同窓会の皆様には、平素より多大なご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。



6 月下旬、能代高校の周辺は、松の瑞々しい緑に取り囲まれ、身も心も緑に染まっていくような気にさせてくれます。特に、前庭の松は、同窓会の力添えで手入れも行き届き、高校としては珍しいほどの、見事な景観を見せています。近くを走る国道沿いの松に、松食い虫の被害が拡大している現状を考えると、この先の心配は尽きませんが、大切に育てていきたいと思ひます。

さて、今春の卒業生の進路実績を見ると、国公立大進学者が過去最高の 115 名 (合格者 134 名) に達し、医学部医学科への進学者も 5 名を数えました。これは、全卒業生の 49% にあたり、私立大学進学率 35% を大きく上回る結果となりました。地元能代の経済状況も反映していると思ひますが、粘り強く、7 科目の勉強をする生徒が増えてきたことも事実です。

また、今年部の活動では、体操部が団体で、柔道、陸上で個人 (各 1 人) がインターハイ出場を決めました。また、文化部の活躍がめざましく、無線部 (ARDF 競技) が韓国での世界大会と鹿児島での全国大会へ出場するほか、放送部 (3 人) が全国コンクールへの出場権を得ています。この後、弁論部 (ディベート)、演劇、囲碁・将棋部などが全国を目指して大会に臨みます。

そして、硬式・軟式の両野球部も、着々と力を蓄えています。硬式野球部は、県北春季大会で優勝し、全県大会で秋田商業高を破ってベスト 8 に残りましたが、ベスト 4 をかけた準々決勝で秋田南高に逆転負けを喫してしまいました。軟式野球部も、春季リーグ戦では優勝しましたが、春季大会では秋田工業高に敗れてしまいました。しかしながら、硬式、軟式とも、強豪各校の実力に大きな差はなく、どこが全国大会に出てもおかしくない状況です。この数週間の持っていき方が勝負と見ています。吉報を東京に届けたいものです。

また昨年来、井上前校長が立ち上げた Will Project も、少しずつ前進しています。様々な調査と分析により、本校の課題や取り組むべき方向性

がより具体化してきました。難しい問題も多々ありますが、「全ては生徒の幸せのために」を合い言葉に、生徒の可能性を最大限に伸ばす学校を目指して進んでいきたいと思ひます。倍旧のご支援とご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、東京同窓会の益々の発展と、会員の皆様のご健勝とご活躍を心より祈念いたします。

will Project については、平成 19 年発行の本紙 (第 17 号) に、井上高廣先生にご寄稿いただきました。17 号をお持ちでない方は、東京同窓会ホームページでも公開しておりますのでご覧ください。



松をはじめとした木々が美しい能代高校の前庭
(2008 年 5 月撮影)

印刷・製本
ホームページの作成・更新

大森太田印刷有限会社

太田 勝治
(第 29 期 三種町鹿渡出身)

〒143-0015 東京都大田区大森西 2-1-21
電話 03-3765-1779・FAX 03-3766-1228
E-mail : ota-p@nifty.com
URL : <http://homepage2.nifty.com/ota-p/>

**** 同窓生インタビュー ****

松尾一彦 「樽子山ライブをきっかけに同級生に再会」

1974 年のデビュー以来、オフコースほかさまざまなグループのメンバーとして、ギタリストとして、プロデューサーとして多方面で活躍中の松尾一彦さん (43 期生) に、この会報のために語っていただきました。



まつお かずひこ

[ギタリスト、作曲・編曲家、プロデューサー]

1954 年秋田県八森町 (現・八峰町) 出身。小学校まで比内町で育ち、八森中学校から能代高校へ進む。卒業後、大間ジローとともにジャネットを結成し '74 年にデビュー、'76 年オフコースに加入 ('89 年解散)。'96 年よりソロ活動が続けるかたわら、ABC や THE UNIT などのユニットでも活動。ギタリストとして吉田拓郎などのツアーに参加し、プロデューサーとして斉藤和義を手がけ、作曲家として稲垣潤一、森川由加里、MAYUMIGRACE ほか多くのアーティストに楽曲を提供している。

●バンド結成～能高祭や卒業コンサートで演奏

高校時代は 1 年から 3 年まで仲間とバンド活動をしていました。能高祭には毎年出ましたけど、1 年のときは、すぐ人が集まったんだよね。2 年目からはほとんど人がいない状態だったから、別に僕らを見たいから集まったわけじゃなくて、バンドに興味のあった時代なのか、うまく運営してお客さんが集まりやすく企画した人がいたのか、それは定かではない。体育館が満杯になって、そこで演奏したのはジミ・ヘンドリックスやザ・フーの曲です。

メンバーには能代高校生だけでなく能代工業に入った中学時代の友だちもいたから、工業の学校祭にも出てました。能代工業では、オックスのまねして失神するグループが人気で、お客さんも集まりました。

3 年の 3 学期には、公民館を借りて、ストマック・トラブルというバンド名でコンサートをやりました。自分たちで企画して、学校にはちょっと反対されたりしたけど、いろいろ建前が必要みたいでね。それは僕らのバンドだけのライブだったから、「みんなでやりましょう」としたほうが学校は OK だったのかもしれない。

●十里強歩の楽しみ

音楽以外の思い出といえば、十里強歩。八森から最終列車で能代に出てきて、出発まで遊んで、夜中の 12 時に出発して…というのが楽しくてしょうがなかったかもしれない。歩きましたよ、もちろん。変にのろろ走るよりも、早足で歩きました。ラジオを持ってきてるやつもいて、番組にリクエストを出したようで、ラジオから「能代高校のみなさん、きょうは十里強歩で夜中に歩いてるみたいだねー。じゃあ、この曲を送りましょう」と聞こえてきて、あちこちで歓声があがってね。そのあともラジオ DJ が「十里強歩をやってる人たちも、そろそろ疲れてる頃だろうから」と言って、ラジオ体操の音楽をかけてくれたり。楽しかったですよ。

●デビューへの道

高校生活の最後に、大館鳳鳴高校の大間から電話がかかってきて、「東京でコンテストがあるから、何曲か覚えて、出ないか」と誘われました。ちょうどキャロルみたいなバンドが売っていたロックンロール・リバイバルの頃で、ロックンロールの曲でコンテストに出ないかということで。僕はその頃どちらかというハードなロックンロールをやっていたので、自分がやってる音楽とは違うんだけど、やってみようと思って出ることにしました。

大間とは、夏休みだったか、同じイベントに出てみたいんです。イベントといっても、地元のだけかが企画したもので、あの頃はフリーコンサートや 99 円コンサートとかが、はやったんですよ。少し上の世代のなかには、人をいっぱい集めたくて、ウッドストック・フェスティバル (1969 年) みたいなことをしたくて、企画する人がいたんですね。お客さんもたいしていなかったけど、大間はイベントで僕を見ていて、声をかけたようです。

卒業式のちょっと前に、「津軽」かな、夜行に乗って、上野に到着して、そのまま新宿に向かって、伊勢丹の屋上でコンテストに出たんですよ。そこで準優勝して、日比谷野外音楽堂の「ロックンロール・フェスティバル」に出演させていただきました。そのイベントに出られることだけが賞品というコンテストだったんですよ。それをきっかけにプロに近づいていくんです。

それから武道館で開催されたコンテストでも優勝して、そのあとにテレビでコンテストがあるからと誘われて、出たのが『キンキン&ムッシュのザ・チャレンジ』です。その番組で優勝して、知らないうちにレコード会社も決まっていました。

●「悠久の都 -My Home Town-」

八森にたびたび行くようになったのは7～8年前からです。2001年に始まった「白神フェスティバル」というイベントのために、地元の人から声をかけてもらって、それで行く機会が増えました。

たまたま田舎をイメージして曲を作ったので、それを町にプレゼントしたら気に入ってもらって。なにかにつけてその曲を町で流すとか、そういうことをできればいいんじゃないかなと思っていたら、それをもとにイベントをやりたいということになって、「白神フェスティバル」をプロデュースすることになりました。その曲は「悠久の都 -My Home Town-」というんですが、その後NHK『みんなのうた』で「悠久の杜」というタイトルで放送されたんです。

●能高出身の音楽家たちとの交流

高校時代、宮城伸一郎（チューリップのベース奏者）やとんぼちゃん（ともに44期）とは、会えば「おう」と言うような関係だったけども、あまり一緒になにかをやったことはありませんでした。1回だけ、今はジャズ・ピアノ奏者の納谷嘉彦（43期）が先に立って企画したコンサートで、一緒にやったことはあります。

自分を含めて、みんな音楽が好きなのはわかるけど、将来だれがどうなるなんて全然考えてもいなかった。なにせ田舎で考えていてもどうにもならないだろうと思ってたから。でも、みんなそれぞれ音楽をやりましたね。

宮城とは能代高校つながりということで、2006年に二子玉川で一緒にライブをやったんです。音楽出版社（アストロミュージック出版）の社長の五代儀彦秀が僕と同期で、宮城も旧知の仲なので、3人でやりましょうということになりました。高校卒業して以来初めてですね。今まではそういうジョイン

トをやったことがなかったんだけど、それも楽しいかなと思って。彼はそのときチューリップのツアーを忙しくやってた頃ですね。だから財津和夫さん（チューリップ）も見に来てくれたりして、宮城はやりにくかったんじゃないかな（笑）。

●樽子山ライブ

去年（2007年9月14日）、樽子山の能代文化会館で、ソロのライブを初めてやったんです。ずっと能代でやりたいとは思ってたんだけど、自分で企画してメンバーも連れていくというのは、なかなか大変なんですよ。それで二の足を踏んでる状態だったんですけど、能代高校の先輩の浅野貞博さん（天洋酒店）が実行委員長をやってくれることになって、実現したんです。いい会場はあるかな？と聞いたら、樽子山に文化会館があるじゃないですかという話で、もうびっくり！タイトルはベタだけど「樽子山ライブ」にしました。一緒に活動しているメンバーを連れて行って、パーカッションだけは、秋田に大間がいるので、彼にゲストで出てもらいました。

ライブの日は同級生が集まってくれて、高校卒業して以来初めて会う連中ばかりでした。オフコースのときも秋田市までは行くけど、ずっと連絡もしていないのに、急に「ライブがあるから来て」ってみんなに言うのは後ろめたかったんですよ。ほんとうにみんなよく集まってくれたなと思います。久しぶりに友だちの顔を見て、ほとんどの人は5分ぐらい経つとちょっとした表情で思い出すけど、卒業アルバムと見比べても全然わからないやつもいるんだよね（笑）。なんでこんなに長いあいだ会わなかったんだろうなあと、ずいぶん不義理をしてしまったような気分でした。

東京でも能代高校時代の連中と会う機会はあまりなかったんだけど、そういうこともあって、去年あたりから、声をかけてもらってはたまに会うようになりましたね。

●同窓会メンバーのみなさんへ

同級生とも三十数年ぶりに会って、やっと再交流しはじめたところで、もっと前から同窓会のことを知ってればよかったなと感じます。いつか、おじゃましたいなという気持ちです。

文中に登場する「樽子山ライブ」や宮城伸一郎さんとのジョイント・ライブについては、松尾一彦さんの公式サイト（<http://www.gallery-untitled.com>）にて写真付きのレポートが公開されています。当時の学校のようすもうかがい知ることができます。ぜひご覧ください。

取材（2008年6月28日）／淡路和子（第55期）

***** 恩師インタビュー *****

安井信雄先生**教師の motivation を高めてくれる学校**

今回は、昭和 47 年 (1972 年) 4 月から昭和 55 年 3 月までの 8 年間、英語科の教師として能代高校に在職された安井信雄先生にお話をうかがいました。

安井先生は能代高校の 27 期 (新制 9 期) 生でもあります。生徒として過ごした時代も教師として過ごした時代のことも、今も鮮明に思い出されると話してくださいました。

**◆能代高校でとくに印象に残っていることは？**

母校への赴任は大きな誇りでしたが、重責でもありました。共通一次試験の導入 (昭和 54 年から) など、入試制度の改革が進められている時代で、「進路指導の効果的な方策と体制の確立」が急務でした。紆余曲折はありましたが、各教科と学年部を中心とした協力体制がうまくとられ、着実に成果が上がっていったことは大きな喜びでした。

赴任した昭和 47 年に、新校舎建築の第 1 期工事が始まりました。49 年 10 月末、住み慣れた樽子山から高埜の校舎に移転したときのことは、とくに強く心に残っています。

トラックで運ばれてくる机や椅子、備品などを、職員と生徒が一丸となって搬入しました。樽子山を去る寂しさを乗り越え、新地高埜から雄飛しようと決意を新たにしている作業でした。移転後の通学、通勤には苦勞が伴いましたが、広い校地の新しい学舎の生活に徐々に慣れていきました。

◆能代高校生気質、能代高校生らしさとは？

優しく、素直で、団結力が強いのが、能代高校生の特質だと思います。

能代高校生は授業に積極的に取り組み、反応が素直で教えがいがあり、教師の motivation を大いに高めてくれます。学ぶ者に素直さがなければ、授業の効率や成果は期待できません。能代高校が、教師にとって一度赴任すると去りがたい学校である所以です。

また、能高祭や学級対抗スポーツ大会などの行事で発揮される結束力の強さは、昔も今も「能代高校生らしさ」の象徴といえるでしょう。

◆先生ご自身の高校時代の思い出は？

弁当を二つ持って高足駄を履いて、北能代駅から汽車で通学しました。よき教師や級友たちに恵まれ、授業も友との語らいも exciting で、毎朝登校するのが本当に楽しみでした。

当時、英語の先生の指導と援助の下で「英語輪読会」が開かれていましたが、初めて原書の短編小説にふれたときは大いに感動したものです。

部活動は「弁論部」に所属しました。部員は少なかったのですが、2 年と 3 年のときに 3 人編成のチームで「全県高校討論会」に出て、連続優勝できました。議論の展開を予測して自分たちの主張を組み立てる作業は楽しくもあり苦しくもありましたが、貴重な体験で、教師になってからもさまざまな場面で役に立ちました。

3 年のとき、体操部とバレー部がインターハイでアベック優勝を成し遂げ、提灯行列で祝ったときの感激は忘れられません。後にオリンピックでも活躍したバレーボールの菅原貞敬さんとは、東雲中学校から一緒の同期です。

◆近況をお知らせください。

退職して 10 年が経ち、昨年「古稀」を迎えました。退職後 2 年間は、県教育委員会のスクールアドバイザーを仰せつかって、能代山本地域の小・中・高等学校を訪問しました。小・中・高の校種間の連携を密にして、「一人ひとりの子供の成長」に視点をおいた教育のいっそうの充実を図ることが重要ではないかと考えさせられました。

昨年度までの 3 年間は、能代北高の文部科学省指定研究事業 (SELhi = Super English Language high school) の手伝いをしました。若い先生たちの熱意から、多くのことを学ばせてもらいました。

◆最後に、能代高校同窓生へのメッセージを。

「君たち能高生は選り抜かれたエリートなのだ。そのことを自覚してあらゆることに取り組み」というのが、私の高校時代の恩師の口癖でした。

どんな状況にあっても、誇りと自信を持って前進せよと諭されたのでした。恩師の言葉をお借りして、とくに若い層の同窓生各位へのメッセージにしたいと思います。

いま私たちを取り巻く状況は不安に満ちていて、将来のことはきわめて不透明です。自信と英知を持ち、グローバルな視点に立って世の中をリードしていく人材が多数輩出することを願っています。

皆々様の充実した人生の展開をお祈りいたします。

◇平成 20 年 7 月 19 日、能代市西通町の安井先生のお宅でお話をうかがってきました。最近市内の「風の松原」を 4～5 キロ歩くのが日課ということで、たいへんお元気なご様子でした。

安井信雄先生、ありがとうございます。

吉田真由美 (第 46 期) 記

*会報制作委員会より

お話を聞きたい先生、近況を知りたい恩師など、リクエストがありましたらお寄せください。

***** 特別寄稿 *****

教員生活の始まりの学校

～能代高校東京同窓会に参加して

小西 和子



能代高校在職当時の小西 (北川) 先生
(第 46 期生の卒業アルバムより)

昨年 (2007 年) 10 月、お誘いを頂いて初めて同窓会に出させて頂きました。懐かしい顔に出会ったとき、30 年以上の年月が一瞬にして縮み、みなさんの顔の後ろに当時の十代の高校生の顔がしっかり見えたのです。ヒトの記憶のすごさを感じました。

東京に住んで長くなりますが、能代高校で過ごした 5 年間は今でも時々思い出します。今、教鞭を執っている高校では健脚大会と言って 50km を歩く行事を行なっています。まだ 26 回と歴史は浅いのですが、この行事のたびに能代高校の十里強歩を思い出します。当時は一緒に歩いて「おもしろかったね」で終わっていましたが、今は担当者として無事故で続けることの大変さを感じています。

能代高校での忘れられない思い出はたくさんありますが、そのうちの一つは薪ストーブにまつわる出来事です。授業でひと通り説明が終わり、みんなが問題を解いていたとき、一人の生徒が「先生、コー

ヒーどうぞ!」と言ってストーブの上のせてある葉缶のお湯でコーヒーを淹れてくれたのです。「何と気の利くクラスだろう」と妙にうれしくなったのを覚えています。また、あるとき教室に行くとストーブの上に大きな鍋が置いてあり、なんと中にはカレーの具が煮えていたのです。みんなで肉や野菜を持ち寄り、今日の昼食はカレーだと言うのです。「ご飯は?」と聞くと、みんなそれぞれ弁当にご飯だけ持ってきたとのこと…。さすが能高、バンカラな面が残っていた頃の思い出です。きっと今の高校ではあり得ない懐かしい高校生活でしたね。

そんな高校生が今ではみな 50 歳。元気に同窓会に参加されていらっしゃるようですが、三十数年の歲月にはきっといろんな出来事があったのではないのでしょうか。そんな人生を感じさせるシワがみなさんのお顔に少し見えました。

私は今も教員を続けていますが、いつの時代も高校生の「何かに頑張る、挑戦したいという気持ち」は変わらないように思います。みんな秘めた力を持っていると信じて、成長のお手伝いをしています。能代高校は私の教員生活の始まりの学校でした。何も出来なかった私を育ててくれたところです。皆さんありがとうございます。また、機会がありましたら、同窓会にお声をかけてください。

同窓生のみなさんのご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

*小西 (旧姓北川) 和子先生は樽子山校舎時代の昭和 45 年 (1970 年) から 49 年の 5 年間、理科 (物理、化学、地学等) を担当されました。なお、当時の能代高校の暖房は「薪ストーブ」だったそうです。

* 2007 年 10 月の総会・懇親会では、初参加者として小西先生にごあいさつしていただきました。また、今年 10 月の同窓会にも出席していただける旨、ご返事をいただいております。



平成 20 年度 能代高校東京同窓会総会・懇親会のご案内

【日時】平成 20 年 10 月 4 日 (土)

受付 12 時～

総会 12 時 20 分～ 13 時

講演会 13 時～ 13 時 30 分

講師 泉牧子 (能高第 48 期)

懇親会 13 時 30 分～ 16 時

【会場】アルカディア市ヶ谷 (私学会館)

5 階 大雪の間

市ヶ谷駅より徒歩 3 分

JR、地下鉄新宿線、有楽町線、南北線
(地下鉄は A1-1 または A-4 出口より)

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25

電話 03-3261-9921

<http://www.arcadia-jp.org/>

【年会費】3,000 円 (1 世帯)

* 卒業年次による免除や割引はありません。

* 世帯制につき、ご夫婦とも同窓生の場合はお二人で 3,000 円となります。

* 2008 年の新卒者に限り、本年のみ年会費は頂戴しません (本校同窓会に納入済み)。

* お振込、または当日受付にて受領します。

【懇親会費】男性 7,000 円 女性 6,000 円

* 割引制度や特例があります (下記参照)。

【出欠】同封のはがきに記入して 9 月 19 日 (金) までに投函してください。

【連絡先】能代高校東京同窓会事務局
(大森太田印刷内)

電話 03-3765-1779 FAX 03-3766-1228

e メール ota-p@nifty.com



【懇親会費の割引・特例】男性 7,000 円 女性 6,000 円から、以下のとおり差し引きます。

- | | | |
|------------|--------------------|-----------------------------|
| (1) 初参加割引 | 総会・懇親会初参加の同窓生は | 3,000 円引き |
| (2) 若者割引 | 第 57 期生以降の同窓生は | 3,000 円引き (来年は第 58 期生以降が対象) |
| (3) 学生割引 | 学生の同窓生 (年齢不問) は | 懇親会費を免除 (年会費のみ受領) |
| (4) 新卒者の特例 | 今年 2008 年に卒業した同窓生は | 1,000 円のみで参加できます |
| (5) 家族の参加者 | 同窓生の家族の参加者は | 3,000 円で参加できます |
| (6) 友人の参加者 | 同窓生以外の参加者は | 5,000 円で参加できます |

★ (1) と (2) は重複可とします (例: 初参加の 60 期生男性の場合は、計 6,000 円引きで、懇親会費は 1,000 円となります)。

* ちょっと健康が不安という方も、ご家族やご友人と一緒に参加してください。

* ご家族に同窓会の雰囲気を見せてあげたいという方も、遠慮なくお連れください。

* 卒業期がわからない方は封筒の宛名ラベルや東京同窓会ホームページの卒業期早見表をご覧ください。

* 大先輩や若年層が参加しやすいように工夫しました。声をかけあってご出席ください!

講演会 演題：「JAンビニ立ち上げの裏話 ～本当は怖い食の話～」

講師：泉 牧子さん(第48期)

J A秋田やまもと
営農生活部ふれあい課 課長



J A秋田やまもと(三種町鹿渡)に全国初のJ Aによるコンビニエンスストア「J AンビニAN N・AN(ジャンビニあんあん)」を立ち上げた泉さんに、安心・安全をテーマに掲げるコンビニの逸話や、食のことをお話しいただきます。



<プロフィール>

1959年 能代市生まれ
1978年 能代高等学校卒業
1980年 秋田県立農業短期大学卒業
旧鶴川農協に生活指導員として勤務
その後J A合併を経て、現J A秋田やまもと勤務
その間、広報、監査、企画等に携わる
2004年 営農生活部ふれあい課 課長就任
現在に至る

<主な活動・受賞歴>

1985年 「安心して食べる運動」立ち上げ、添加物排除を掲げる
2000年 スローフード運動立ち上げ
2002年 全国食生活コンクール会長賞受賞
2003年 秋田県農林水産大賞受賞
2005年 全国地産地消表彰事業農林水産大臣賞受賞
2006年 全国初J Aンビニ立ち上げ
2007年 東北大学農業経済学会実践賞受賞
2008年 男女共同参画大賞 受賞

平成19年度総会・懇親会の出席者(敬称略)

2007年10月13日 於：アルカディア市ヶ谷

【19期】小林肇【21期】五十嵐資和、信太吉右エ門【23期】矢口裕【24期】山縣輝輔、畑江道弘、木村喜作【25期】畠豊彦、佐々木胤麿【26期】八柳昭義、佐々木章、畠山信孝、佐々木高博、鎌田吉郎、野呂文雄【27期】檜森寛、大村真陸郎、梅田政男、後藤信義、若松正雄*、高砂浩、山田邦夫、斎藤秀夫、栗原優子、加賀義介、工藤豊、佐藤齊【28期】石川輔宏【29期】太田勝治、関根市男、宮腰興紀、石川正順、宮腰瑞夫、鈴木元紀、佐藤晃一*、清水武久【30期】熊谷幸夫、工藤トシ子*、田村正宏、今立駿*、相沢節夫*、田中勝美*、藤田道義【31期】長岡満夫*【32期】高田政勝【33期】皆川尚一*、清水靖子*、武田功、矢木信章【34期】棚橋東峰*、庄内正、長岡忠光、金田三千夫*【35期】石山真*、横田真理子、佐々木正男、田村博*、干場革治、戸松大洋*【36期】深井学、加藤和海【37期】若狭秀己、小野津世子【38期】豊嶋誠、金野正道*、佐藤春香*、棚橋牧人*、宮腰昇*【39期】大塚進、菅原渉【41期】小河範也、鈴木幸男*、大久保英生【43期】福岡武、菊池忠夫、佐藤悌弘、幸坂和彦*【44期】庄内俊憲【45期】三浦洋、袴田邦夫、大塚雄蔵、平野信任、鎌田泰宏*、真崎裕、高松武史、塚本裕幸*【46期】石井喬、吉田真由美、斉藤靖雄【47期】平川均、和平忠幸【48期】北林蒔子*、野村松信*【49期】片谷浩之、松永京子、田村盛仁【51期】袴田亘【53期】吉田順、梶原禎子【54期】佐藤篤規*【55期】淡路和子【58期】原田長政*【62期】大高忠勉【63期】福本円【67期】小野立【75期】小松かおり*、小松佳徳*

以上会員参加者 107名 氏名の後の*は初参加者28名

◎ 恩師1名 ◎ 友人3名 ◎ ゲスト1名 ◎ 来賓17名

以上参加者総数 129名

平成 19 年度 総会・懇親会のご報告

平成 19 年度の東京同窓会総会および懇親会は、2007 年 10 月 13 日（土）、アルカディア市ヶ谷において催されました。講演にはシダックス株式会社副会長の若松正雄さん（第 27 期）を講師に迎え、「時代の变化とともに歩んだ映画屋、そしてカラオケ屋」をテーマにお話しいただきました。また、アトラクションとして尺八奏者の今野鈴道さん（第 38 期）が出演し、琴奏者の清水靖子さん（第 33 期）とともに演奏していただきました。





投稿

郷土史への取り組み

第 24 期 山縣 輝輔

今年の 3 月に、私は卒業論文「幕末の農兵—秋田藩渡部村農兵などから」(約 275 ページ×200 字)を書き、大学の文学部史学科(通信教育課程)を卒業しました。

是は、大学卒業後、日本精工(株)のエンジニアとマネージャーとして、生産と設計部門 18 年、海外部門 18 年の経験し、過去約 13 年の海外駐在在生活を通じ、日本の歴史を海外の多くの友人、知人に十分に説明し、理解させる難しさと反省から、定年退職時に日本史を勉強することにいたしました。

定年後、中小企業に就職し、約 7 年間勤め、約 5 年前から歴史学に本格的取り組み、約 2 年間で卒論を纏めました。多くの若い学生と年配の友と共に、夏季スクーリングで机を並べ、演習では討論をし、共同作業をし、時には先生を囲んで懇親会等に出席し楽しいひと時を過ごしました。

卒論の史料収集には苦勞し、色々な機会に数多くの方にお世話になり、感謝しております。卒論の課題には郷土秋田県の題材を収集し、秋田公文書館、国立国会図書館、法政大学図書館、都立中央図書館等にお世話になりました。

色々調査している中で、現在、世界中が温暖化現象、気候の変化により、旱魃、水害突風被害等が発生している中で、秋田藩が生んだ老農「渡部斧松翁」の事跡に現代でも大いに参考になるのではなからうか。秋田県の再生と大発展には政府の減反政策を即時に廃止し、荒れた田畑を再生し、家畜用米、大豆、玉蜀黍、野菜、果樹、養蚕等秋田の風土に合う魅力ある農産物を育成し、林業の再生等お互いに知恵を絞り、観光のほか道路工事に変わる働き場所を生み出す工夫が必要ではなからうか。今アフリカの支援問題が討議されているが、部族間の対立を解消し、まず、水利、道路等を改良し、長期的には農地を再生させ、働く農民を育成し、経済の向上の基礎がための自立思考の援助に転換すべき時期に来ているのではなからうか。

卒論を纏めるにあたり、能代高校後輩の秋田公立美術工芸短期大学教授、野村松信氏(第 48 期)に大変お世話になりましたことを、この紙面上から厚く御礼申し上げます。

71 才の挑戦

第 25 期 那須 秋男

平成 20 年 3 月 7 日から 9 日までの 3 日間、菅平高原スキー場で行われた東京都スキー連盟主催の準指導員検定会に参加して合格した。最高齢 71 才での合格者となり、プロのスキー教師の一員になった。能代の出身だから雪の中で遊んで育ち、雪には慣れているとはいうものの、きちんとスキーを習いだしたのは 60 才になってからだった。入会資格 40 才以上という中高年のスキークラブ・クラシックスキークラブに入れていただいたのが本格的にスキーを始めるきっかけだった。雪国出身で、滑るのは人並み以上と自負していたが、クラブの皆さんのきちんとしたきれいな滑りにびっくりした。クラブに入れていただいてすぐのバッジテストで 2 級には合格したものの、基礎からちゃんと習わないと駄目だと、それからは毎シーズン講習漬けだった。

船橋の室内スキー場・ザウスがある頃などは、真夏でも毎週のように通ったものである。6 年前に 1 級をいただいて、アマチュアとしてはこれでよしと思ったものの、スキー技術には終わりがなく、全日本ナショナルデモンストレーターだった先生についてさらに磨きをかけることを続けた。

昨年古希を迎えて最後の挑戦で準指導員試験を受けてみようかなという気持ちになり先生に相談したところ、那須さんの年でこれほど滑れる人は世の中にいないから合格のチャンスはありますよとのこと。20 才からの孫みたいな若い受験者に混じっての試験で、ここ 2 年ほどは 60 才台以上での合格者はゼロという状況の中での挑戦となった。

3 月 7 日午前 9 時、菅平スキー場中央広場に 360 人の受験者とサポーターや応援団数百人が集まって開会式が行われた。受験生は、我こそはという腕自慢の若者たちがほとんどであり、中高年は数えるほどしかない。

開会式のあとすぐに種目ごとの試験会場にわかれて検定が始まった。試験は実技 9 種目の検定と学科試験である。実技は、テールコントロールから緩斜面整地のブルークボーゲン、急斜面不整地でのシュテムターン、急斜面整地の小回りの 3 種目、トップ&テールコントロールからは急斜面整地の大回り、急斜面不整地の小回り、緩斜面整地のブルークターンの 3 種目、トップコントロールからは中斜面整地の小回りと大回りの 2 種目それにポールがあり全部で 9 種目である。各検定会場では受験者を囲んでサポーターたちがザックに入れた熱い飲み物やバナナ、

チョコレートなどで受験者の面倒をみている。初日は4種目の検定が行われ、その夜は別の会場に連れていかれて2時間の学科試験。四択一式の問題74問と2問の記述問題だった。二日目も昼食休憩なしでトップコントロールの大回り、不整地の小回り、トップ&テールの大回り、ブルークボーゲンの4種目の検定が行われた。最終三日目は二本のポールバーンで制限滑降の1種目のみ。今年はタイムを計測せずに滑り方を3人の検定員が評価した。午前11時すぎにはすべての検定が終わって閉会式。可否の発表は午後3時から菅平リゾートセンターの大広間で行われた。正面のスクリーンに合格者のゼッケン番号が次々と映し出され、あちこちでどよめきがおこる。この一年間の集中と三日間の緊張で、自分の番号が出てきたときは思わず涙が出た。年配者にとっては大変な試験で、相当な覚悟の人以外にはとても勧められない試験であった。

全日本スキー連盟認定のスキー教師は全国で4万7千人もいるので、71才の私に習いたいなどという人はいるはずもないが、私たちのクラブには630人の中高年スキーヤーがいるので、その人たちに教えることになるだろうと思う。これまでは毎シーズンのべ60日ぐらいい滑っていたが、いつまで続けられることか。

孫を訪ねて北欧へ

第 29 期 宮腰 瑞夫

職場で「デンマークは北緯何度ですか？」と尋ねられ、大潟村が40度であることを思い出し、50～60度ぐらいいかなと安易に返答したが気になっていた。正解は北緯56度だった。

その56度00分にあるコペンハーゲンに昨年12月16日～21日まで滞在した。空港では、コペンハーゲンで家庭を持った娘が、2カ月前に出産した孫をバギーに乗せてきており、感動の初対面を果たした(実は誕生直後スカイプ映像で間接的に対面した)。色が白い。

コペンハーゲンへの訪問は3回目。これまではホテル住まいだったが、今回はアパートに転がり込み、実際にスーパーで食材を買い出し、コーラの空壺でデポジットを経験し、キッチンで簡単な朝食を作ったり、ホームステイに準じた暮らしを試みる事ができ、満足できる日々であった。

孫の世話で手を離せない娘に頼まれ、パンを買いに行ったが、店内のショーケースを見て「ザッツワン」としか言えず、「プリーズ」を言い忘れた。

娘にそれを必ず言うように念を押されていたが後の祭だった。

外気はマイナス5度前後。雪はない。近くのデパートはクリスマスプレゼントを買い女性客で賑わい、素敵なコート、ジャケット、ブーツを身につけ、スタイル抜群の北歐美人のファッションショーに出くわしたようだった。消費税25%は痛い、福祉の国だから老後には間違いなく還元されるし、医療費は無料。子供の教育費も社会人になるまで無料。

午後3時頃には辺りが真暗となり日没が早い。街路灯やショーウィンドウの明かりが頼りとなり、ほのかな光が北歐人の心の暖かさやダブって感じられる。何故なら、この国では「ヒュゲ」といって、ローソクの灯火で食事をしたり談笑する風習があり、心を癒してくれる雰囲気を出し、光を大切にしている。

街の広場ではクリスマスに欠かせないモミの木が沢山並べて売られていた。日本の組立て物と違い、枝振りが良く育成された生の木そのもので、手作り人形、星形、光りの小道具等を飾り付けることが家庭の楽しみだ。

コペンハーゲンといえば、アンデルセン、人魚姫の像、チボリ公園、由緒ある陶器等が挙げられるが、大理石の教会とも呼ばれる「フレデリック教会」がお勧めだ。荘厳な教会内部はもちろん、長いラセン階段を昇り詰ると銅葺き丸天井屋外にリング状の展望台がある。眼下にはデンマーク王宮の居城である「アマリエンボー宮殿」があり、衛兵の交代式が行われる八角形の大広場が見える。また正面にはオペラハウス、右手に豪華連絡船、洋上の彼方にスウェーデンが広がり、北歐有数の絶景ポイントである。

この国の洋上ウィンドファームは世界的に有名である。その姿を見ると能代の陸上ウィンドファームの風車を思い出す。環境と経済が好循環する社会を望みたいものである。



フレデリック教会

投稿

27 期・古稀の同窓会

第 27 期 後藤 信義

昨年 9 月 12 日、東京同期会をホテルグランドヒル市ヶ谷で開催しました。

卒業以来 50 年、古稀の祝いを兼ねた久しぶりの東京同期会は女性 5 名、地方からの参加者 7 名にはじめての出席者もあり 35 名集まりました。

青春のひとときを共有した仲間は旧交を温め語り合い、校歌や応援歌に能代時代を想い楽しいひと時を過ごしました。

古稀とはいえまだまだ若い仲間ですが、未知の老後に立ち向かうなかで同期の絆を確認し、次回の再会を楽しみに散会しました。



50 年振りに会う方も居て懐かしさいっぱい昔話に花が咲き、たちまち樽子山の能代高校が出現。時間も忘れ語り合い、お陰さまで記念同期会に相應しい心に残る同期会となりました。

最後に、健康に気をつけてこれからも元気で集まろうと誓い合い、お開きとなりました。

また、私達の歩み『70 年の記録』も編集・発行の予定です。

写真は六義園での記念写真です。



28 期の古稀同窓会

第 28 期 石川 輔宏

同窓生の皆さん、お変わりありませんか？

私は退職してから早や 6 年が経過、ドブプリ年金生活に浸っておりますが、お陰さまで勤めていた会社の OB 会のお手伝いや町内会の役員やらで結構忙しくしております。

さて、私達 28 期生も今年は高校卒業 50 周年と古希を迎え、去る 5 月 26 日首都圏在住者による記念同期会を開催いたしました。

今年の同期会の世話人は塩吞惇、越後政明、須田正巳、神馬靖子と石川輔宏（世話人代表）の 5 人が担当しました。

今年は、遠くは福岡、名古屋、仙台からも参加者があり、過去最高の 25 名が集まりました。第一部は文京区の名園「六義園」にて抹茶のお手前と庭園散策、第二部は会場を新日鐵代々木倶楽部に移して宴会を行いました。

卒業 40 周年で集合

第 38 期 豊嶋 誠

去る 2 月 16 日、初の 38 期同期会を西麻布の「季節料理 能代」（同期生佐藤春香君のお店）で開催しました。東京同窓会で再会した人を中心に 11 名が集まりました。いつもの顔、40 年ぶりの顔など、一同に揃いお互いに変わり果てた姿？と自分の姿の再確認…。

すぐに 40 年前に戻り、近況や昔話に花を咲かせ、

新橋で同窓生に会える店



《お昼には妻とろろご飯に 焼き飯か煮飯が一品ついたら定食が人気！》

おいしい酒 と肴の店 新橋「和作」

第 36 期 加藤 和 海 (能代市新柳町出身)

新橋駅前ビル 1 号館 (蒸気機関車の反対側の駅ビル 1 階)

TEL 03-3575-1756



大いに盛り上がりました。

残念ながら今回参加できなかった方々からは、近況報告やメールアドレス等の沢山の返信を頂きました。

「今回はさらに大盛会にしたいね」と再会を誓いお開きとなり、その後二次会、三次会と流れた人も…。

写真は 11 名の不良中年面々です。

新年早々上野に集う

第 45 期 三浦 洋

2008 年が明けて間もなく、同期の平野信任君からメールが届いた。1 月 12 日（土）に能代他から同期生が上京するので、5～6 人で集まって新年会をしようという内容だった。

私から更に何人かの同期生にメールで呼びかけたところ、以下のコメントつきで出席の回答が届いた。「成人病検診に引っかかりまして、検査を受けておりました。結果次第では、欠席するつもりでしたがなんと、「異常なし」との結果となりましたので、喜んで参加させて頂きたい。」

「本当に、パソコンというのは情報手段として優れたものですね。」

「『ふぐ』らしいじゃないですか。すごく間際ですけど、追加 1 人って大丈夫ですか。OK なら、お願いいたします。」

「当日遅れるかも知れませんが（生意気にゴルフです）、参加致します。遅れても割り勘の鉄の掟、よく了解しました。」

どのコメントにも“是が非でも酒を一緒に呑みたい”との気持ちがこもっている。

場所はいつもの上野「きくち」（店主 43 期菊池忠夫氏）である。三々五々到着するも、その都度乾杯を繰り返して 6 時過ぎに全員がそろった頃には既に皆ほろ酔い状態となっていた。全員そろったとこ

ろで近況報告に始まり、病気自慢や能代市の現状を聞きながら、知らず知らずに全員高校時代へのタイムトンネルをくぐっていた。

私は淡路君、織田君と卒業以来 33 年ぶりの再会だったが、他にも卒業以来という声が聞こえていた。

樽子山での思い出が次々と出てくるも、話題はあちこちに飛ぶことしかり、ぐじゃぐじゃ、所謂“ワヤ”の状態が続き 4 時間余りが過ぎた。

最後の締めは我ら同期の“歌を忘れた応援団長”こと奈良君のちょっと怪しいリードで校歌、応援歌を合唱して一次会を終了した。

単身赴任先の山口県からかけつけた相澤君を含む数名は、その後最終の新幹線で北関東方面に移動して泊り込みで更なる旧交を温めたいらしい。また、残る有志は国際親善と称して池之端地区での二次会に繰り出したのだが、こちらは記憶が定かではない。



45 期同期会参加者（13 名）（敬称略）

袴田邦夫、塚本裕幸、奈良博文、大塚雄三、真崎裕、佐藤晃、相澤正和、河田昌俊、金谷哲、淡路利行、織田尚明、平野信任、三浦洋

投稿

第 48 期 3G 同級会

～ It was thirty years ago today ～

第 48 期 淡路 正則

平成 19 年 12 月 15 日 (土)、上野御徒町の「ふぐ・季節料理 きくち」で 48 期 3 年 G 組の局地的同窓会が執り行われました。肝煎りは、能代高校東京同窓会の掲示板でおなじみの野村松信くんです。高校時代の彼の印象は、坊主刈りの朴訥な柔道少年、といった感じだったのですが、掲示板での様子から野村くんの活躍ぶりをうかがっておりました。

野村くんは現在秋田公立美術工芸短期大学産業デザイン学科教授ということで、同級の出世頭といってもいいでしょう。彼は出張のためしばしば上京されるようで、私の兄 (利行：45 期) が柔道部だったこともあって、最近ひよんなことからメールをいただき、今般 30 年ぶりに再会の運びとなりました。メールで日程など連絡しあったあとの集まりで、それこそ「オフ会」といった趣で、ネットで集まっては解散する、という今の時代を感じた次第です。

野村くんの尽力のおかげで、当日は安保伸一くん、北林蒔子さん、渡辺美季子さん、宮腰渉くん、斉藤恒浩くんが駆けつけてくれました。何だか知りませんが私の妹の淡路和子 (55 期) もおまけで加わり、参加者は全部で 8 名でした。

彼ら以外にも、都内近郊に住んでいる同級生何人かに連絡をとってもらいました。長岡正人くん、仙台英俊くんとは連絡がとれたのですが仕事の関係で都合がつかず、今回の参加は見送りとなりました。しかし、今回の出来事をきっかけに連絡が取れたことはそれなりの収穫だったと思います。木曾昌司 (源蔵) くんにもメールを出したのですが、残念ながら返信は来ませんでした。この一文が目にとまることがあれば、ぜひ連絡をもらいたいものです。

それでも、発作的に呼びかけた割に、同期が 7 人集まったというのはなかなか素晴らしいことで、能代時代の昔話から、同期生や先輩後輩の消息、仕事のこと、家族のこと、話は尽きません。野村くんは仕事のため秋田から上京していたのですが、卒業アルバムを持って来てくれており、それを眺めながらまたひとしきり盛り上がりました。

みんなそれなりに貫禄がついたり、容姿の変貌があったり、いろいろ人生経験を積んで来た年代であり、傍目にはきりたんぼ鍋をつついて盛り上がっているおじさんおばさんたちなのでしょうが、私自身

は高校時代に戻ったような、みんな何も変わっていないのではないかといった錯覚に陥ってしまいました。

不惑の年代はもう終盤、天命を知る区切りの齢になったら今度はもっと盛大に集まろうと皆で誓いつつ、二次会の数名を残して中締め・散会となりました。



卒業アルバムを見ながら談笑

ゲッパでも楽しいゴルフ！

～能球会～

第 49 期 片谷 浩之

桜の花がプレーをしている最中にみるみる開花する光景を思い浮かべてみて下さい。能球会の春の例会は、そんな素敵な所で開催されます。場所は浦和カントリー倶楽部。スコアの良し悪しは別として、日頃のストレスや嫌な事も、でらっと忘れさせてくれます。

かく言う私がゴルフを始めたイキサツは、幹事会後の飲み会だったと思います。五日会会長で能球会の世話人でもある石井先輩が「カタヤ、おめもやればどんだ？」それを聞いていた宮腰先輩が「よし、俺のお古一式やるがらやってみれ」。

それまでゴルフは自分では決してやろうとは思ってもみませんでした。練習という練習も無いまま、いきなりコースデビューとなった訳です。勿論、マナーもろくに知らなかったのも、ボールマークをボールの前に置いてみたり、他の人のラインを平気で横切ってみたり…。そんなこんなでも、何回か出席しているうちに、ゴルフの楽しさ、面白さが少しずつわかってきているような気がします。

今は会員がゲストを一人参加させる事が出来ませんが、何しろ気心の知れた同じ能代の先輩・後輩、面白いハプニングも多々あります。例えば…

高谷先輩と同じ組で回っていた私、片谷がいま

した。先発の組にいたO先輩は、隣のコースから私に楀を飛ばしました。「タカヤ! 球見ろ球!」勿論、高谷先輩はOさんの先輩でもあり、カタヤとタカヤを間違えたのは言うまでもありませんが、ちょっとした笑い話です。

少し残念なのは、レディースが少ない事でしょうか。日差しが気になる場所かもしれませんが、青々としたフェアウェイを歩くのは、この上なく気持ちが良い、他のコンペには女性も多く見かけます。私なんか…とと思っているその淑女の皆さん、大丈夫です。初心者にもわかりやすい指導をしてくれる先輩方がいっぱいですし、何よりも毎回「ゲッパ」の私がいまいます。

老若男女、誰でもいつまでも楽しめるスポーツを、貴女もしてみませんか? ほら、藍ちゃんや桃子ちゃんのように…。



4月2日、浦和で開催された第26回能球会

能高釣りクラブ

第41期 小河 範也

美味しい空気を求めて『第3回能高釣りクラブ』が行なわれました。5月25日早朝5時、7時に中央高速談合坂サービスエリアに集合。新緑のすがすがしい空気の中で、溪流に糸をたらしめて釣る人もいましたが、初めてのフライフィッシングを楽しみました。初めてのことは言えこんなにも疲れる釣とは思いませんでした。…となるはずだったのに、当日はまさかの大雨に見舞われ今回は延期!!

写真は前回の釣風景です。Tクンの子供も参加して楽しく釣りを行ないました。昼にはそれぞれ持ち寄った食材で、バーベキューです。Hサンの奥様の手料理も味わえました。これが一番美味しかったかも!

夕方には近くの温泉で裸の付き合いです。釣りの疲れを温泉で落としての帰宅です。釣れた魚は全員で分配しました。1人10匹ぐらいの釣果でした。

自然の美味しい空気をいっぱい吸い、適度に魚もつれ、温泉を楽しめるこんな会です。

バーベキューと温泉を楽しみたい方も募集しています!!



2007年11月25日、リヴァスポット早戸にて

同好会(サークル)募集中

東京同窓会では2008年9月現在、「能球会」「能高五日会」「樽子山会」「東京探訪の会」「能高釣りクラブ」の同好会が活動しています。新たな同好会も募集中です。同窓生のさらなる親睦のための同好会について、提案や希望がある方は、事務局(菅原)へご連絡ください。軌道に乗るまでは事務局も協力したいと考えております。

御徒町で同窓生に会える店

ふぐ・季節料理

きくち

第43期 菊池 忠夫



〒110-0005

東京都台東区上野6-6-4 デュークビル 1F

JR 御徒町駅より歩いて3分

電話 03-3839-3382

e-mail: fugu-kikuchi@mrg.biglobe.ne.jp

白神山地(藤里町)出身

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~fugu-ki/>

<http://homepage2.nifty.com/shoryo-tokyo/g2kikuchi.html>

投稿

バスに揺られて ～樽子山会～

第 25 期 畠 豊彦

昨年 11 月に横浜の中華街で行った樽子山会の際に、たまには泊りがけでやろうという声があり、5 月 18 日に栃木県の湯西川温泉に出かけました。

約 4 時間のバスは辛い、月曜にかかると不都合、体調が悪いなどの理由から参加者は少なく、僅か 7 名 (21 期 2 名、22 期 1 名、25 期 2 名、26 期 2 名)。21 期生は旧制能中に入学し能南高で卒業した年次なので、話が戦前戦後のまさに樽子山時代に及んだ。

話題は飲むほどに後期高齢者年金や、石油高騰などの社会問題、停滞する政治問題など尽きることなく続いた。同窓会の話題としては年代格差・ギャップの問題で意見が一致したのは参加者が皆 70 歳台であったせいか。高齢者は様々の環境変化の中で収入が目減りし、心身ともに生きにくくなっている。当会イコール高齢者会であるとしたら、親睦を目的としてスタートした当会は何を以って今後の親睦を図るか。樽子山会は当同窓会や母校のために何をすることができ、そして、次世代には何を伝えていくべきであるか。新緑の山道をバスに揺られ、うとうとしながら見えない答を求めていた。ま、そんなに難しく考えることもナイか。



一石三鳥の東京探訪の会

第 51 期 袴田 亘

「東京探訪の会」、王子編と荻窪編に 2 度参加させていただきました。最寄り駅に集合し、地図とポイント解説をいただき、参加者全員でスタート。「よく聞くけど、ここだったのか。東京にもこんなところ (自然) があったのか」と驚きの言葉が多かったのが印象です。

通算第 2 回目は 11 月 17 日 (土) 北区王子。落語「王子の狐」の舞台を歩くというテーマで、第 45 期の袴田邦夫さんのご案内により、音無川、落語に出てくる料理屋の跡、王子神社を巡って、王子稲荷神社へ。お稲荷さんの奥の狐の穴ものぞきましたが、残念ながら本物の狐には会うことができませんでした。狐につままれた感じってこれですか？

江戸の行楽地だったという王子のにぎわいを垣間見ることができました。それから広い名主の滝公園を散策して、石鍋くず餅店で休憩。名物のくず餅や栗蒸し羊羹など、それぞれ甘い物を堪能し、王子駅で解散しました。

第 3 回目は 4 月 5 日 (土) 杉並区荻窪。名門旧跡巡りと花見をテーマ (?) に、第 45 期の平野信任さんのご案内で、広い日本庭園のある大田黒公園 (大正時代に活躍した音楽評論家 大田黒元雄の邸宅跡)、近衛文麿の別邸だった荻外荘 (てきがいそう)、善福寺川緑地公園と巡って、荻窪駅で解散しました。開花宣言から 2 週間経って散りかけたとはいえ、善福寺公園の桜はみごとで、いい花見ができました。

是非、みなさんもふるって参加いただきたいと考えております。一石二鳥ならぬ一石三鳥の価値がありますので、ご紹介いたします。

一鳥目：一度は行ってみたいけど、その場所だけを目的に自分一人や家族とでは行きづらい、でも行ってみたい。そんなもやもやが解消でき、あらためて東京の良さが実感できる。

二鳥目：約 2 時間 (休憩あり) 歩くため健康にもいい。特に、メタボが気になる方は、いい運動になりますよ。

三鳥目：目的地にたどりつくまでは、ふるさとの情報に加え、各自の近況報告や昔話に花が咲き、総会や幹事会では知らなかった先輩、後輩の一面が垣間見え、とても有意義な時間を過ごすことができる。

こんなすばらしい「東京探訪の会」への参加をお待ちしております。



大田黒公園にて

総会と五日会に参加して

第 48 期 北林 蒔子

昨年 10 月、はじめて東京同窓会に参加させていただき、若手メンバーの会「能高五日会」の方からお誘いを受け、それ以来参加させていただいています。忘年会、新年会、花見会、暑気払いと定期的に集まって、会員の皆さんと交流を深め、楽しく語り合いながら、ノミネーションを行っています。校歌を歌ったり、現在の能代の情報や、過去の話に話を咲かせています。

東京同窓会に参加したのは、大先輩にシダックスの副会長若松正雄さんがいらっしゃって、その講演があると聞いての参加でした。私は、管理栄養士で老人病院に勤務し、高齢者の給食を作っていたのですが、働きながら早稲田大学大学院の人間科学研究科に在籍し、「高齢者の給食の満足度」の調査をしました。修士論文は、老人保健施設の入所者にインタビューをして、高齢者の給食における問題を考察しました。内容が、働きながらの研究でお粗末だったので、その不全感のため、早稲田を修了し大学の助手に就職したにもかかわらず仕事をやめ、今は東京医科大学大学院博士課程で、アルバイトと貯金を切り崩しながら生活苦と闘いながら、研究生活なのです。一箇所の調査だったため、ぜひ大規模調査を行いたいと考え、シダックスの事業所での調査をお願いしたいと不純な理由からの参加でした。その調査は、研究計画がしっかりしていないという理由で大学からの OK が出ずストップしているので（個人情報保護法にからみ倫理委員会など調査計画は大変になりました）、総会以来シダックスの若松さんにはお願いに伺っておらず、失礼しています。

そんなきっかけの五日会でしたが、その魅力にはまってしまい、欠かさずの参加になってしまいました。メンバーは本当に多彩で、いろいろな方面の話が聞けます。一応東京同窓会の若手の会ということですが、メンバーの年齢の幅はとても広いので（*45 期から下の世代）、興味があったらぜひ参加してほしいと思います。

私事になりますが、50 前にして大学院に入って、苦学生になりましたので、いろいろな思いを抱えておりますが、五日会は本当にそんなことを忘れる楽しい時間をすごせることは間違いありません。一度参加したら、きっとまた参加したくなる、そんな会です。皆さんの参加をお待ちしております。

ホームページと ブログに来てたんせ

第 46 期 齊藤 靖雄

皆様、こんにちは。

さて、今回はひとつ同窓会のブログをご紹介します。今や能代高校本校、本校同窓会、東京同窓会など、全てホームページを掲げております。皆様、パソコン・携帯電話から一度はクリックと各ホームページにお訪ねいただいたことと思います。ホームページには、学校・同窓の話題がテンコ盛りです。「目が点」の情報なんかたくさん見つかりますネ。ホームページを存分に利用し、そして楽しみたいものです。

さてさて、ホームページとは別の情報ツールのひとつに、「ブログ」なるものがあります。ブログ＝ウェブブログのことで、ウェブ上に残される記録、くらいの意味だそうです。いわば頻りに更新される日記のようなものです。

東京同窓会のブログは「いつかの同窓会」といいます。これが面白い。ご覧になったことがありますか？とにかく情報豊富、話題騒然、一回来てたんせ。話題は地元の「バケ汁」から、活躍する同窓生の話題、はたまた全国版の雑誌「ソトコト」に掲載された全日本食育都市ランキング 100 の部門第一位である三種町の食育コンビニ（JA 秋田やまもと直営コンビニ…「食の安全・安心」をコンセプトに）に至るまでその話題の豊富なこと。

食育コンビニの話題では、三種町在住の、能代高校同窓、泉さんから心のこもった（涙ホロリの）投稿をいただきました。

ほんとに生き生きとしたブログです。是非、お立ち寄りください。そして気軽に「足跡」を残してみませんか。「足跡」を残していただけたら、同窓生からのコメントがきっとありますヨ。

能高東京同窓会ホームページの URL が新しくなりました。

デザイン、内容の変更も準備中です。お楽しみに。
<http://shoryokenji.web.fc2.com/>

ホームページからブログや「事務局からのお知らせ」、会報のバックナンバーのページ等にリンクしています。

平成 19 年度（2007）収支決算報告書

（平成 18 年 9 月 1 日～平成 19 年 8 月 31 日）

収入の部			支出の部		
項 目	予 算	決 算	項 目	予 算	決 算
総会収入	740,000	674,000	総 会 費	1,065,000	945,540
会費収入	480,000	434,000	組 織 拡 張 費	22,500	17,835
雑 収 入	110,040	205,607	一 般 管 理 費	240,000	233,099
当期合計	1,330,040	1,313,607	当 期 合 計	1,327,500	1,196,483
			当 期 収 支	2,540	117,124
			前年度繰越金		771,429
			翌年度繰越金		888,553

★紙面の都合で簡易版を掲載しました。総会資料、東京同窓会ホームページでは詳細をご覧ください。

平成 20 年度年会費納入者（敬称略）（2008.7.22 日現在） （2007 年 9 月 1 日～2008 年 8 月 30 日迄にご入金頂いた方）

【04 期】武藤裕宣【13 期】勝永金一【14 期】宮原茂悦【15 期】吉田信一【16 期】金丸明、熊谷洋三【17 期】
 畠仁也、茂呂定広【18 期】愛沢鉄治【19 期】小林肇、鈴木良夫、千葉孝夫、大塚哲郎、五十嵐嘉久彌【20 期】
 金谷芳郎、塩谷隆二、民谷慎一、小野喬、吉田裕【21 期】五十嵐資和、信太吉右エ門、小野茂、金井惇【23
 期】矢口裕、設楽義雄、清水良二【24 期】山縣輝輔、畑江道弘、木村喜作、今村宏司、蓮沼旬、木村信逸、
 金子勝信【25 期】畠豊彦、佐々木胤麿、町田次男、唐津光成、工藤尊久、民谷恒二、北嶋茂、田中秀、大
 山定美【26 期】八柳昭義、佐々木章、畠山信孝、佐々木高博、鎌田吉郎、野呂文雄、板倉富彌、馬場ノリ、
 池内廣之、北村祐三、宮腰英彌【27 期】檜森寛、大村真陸郎、梅田政男、後藤信義、若松正雄、高砂浩、
 山田邦夫、斎藤秀夫、栗原優子、加賀義介、工藤豊、佐藤齊、田中郁三、山崎瑞穂、川井芳敬、加賀麗子【28
 期】石川輔宏、宮腰達朗、須田正巳【29 期】太田勝治、関根市男、宮腰興紀、石川正順、宮腰瑞夫、鈴木
 元紀、佐藤晃一、清水武久、嶋田雄右、笹木広澄、中田龍一、赤塚鉄男【30 期】熊谷幸夫、田村正宏、今
 立駿、相沢節夫、田中勝美、藤田道義、武田茂、宮原卓、工藤トシ子【31 期】長岡満夫、城野攻一【32 期】
 高田政勝、高谷誠、森喬夫、越前谷明則、菅紀夫【33 期】皆川尚一、清水靖子、武田功、矢木信章、工藤
 耕平【34 期】棚橋東峰、庄内正、長岡忠光、金田三千夫、西川廣正【35 期】石山眞、横田眞理子、佐々木
 正男、田村博、干場革治、戸松大洋、加賀亮司、榊修、平川徳道【36 期】深井学、加藤和海、武田忠克、
 男鹿谷浩市【37 期】若狭秀己、小野津世子、加賀咲男、小林雅夫、加茂谷純一【38 期】豊嶋誠、金野正道、
 佐藤春香、棚橋牧人、宮腰昇、酒田正克【39 期】大塚進、菅原渉、金野峻明【40 期】智田農、熊澤朝子【41
 期】小河範也、鈴木幸男、大久保英生【43 期】福岡武、菊池忠夫、佐藤悌弘、幸坂和彦、渡辺博栄、高橋
 敦子、近藤信雄【44 期】庄内俊憲、伊川美津広【45 期】三浦洋、袴田邦夫、大塚雄蔵、平野信任、鎌田泰
 宏、真崎裕、高松武史、塚本裕幸【46 期】石井喬、吉田真由美、斉藤靖雄【47 期】平川均、和平忠幸、大
 坂吉行【48 期】北林蒔子【49 期】片谷浩之、松永京子、田村盛仁【51 期】袴田亘【52 期】井潟正彦【53 期】
 吉田順、梶原禎子【54 期】佐藤篤規【55 期】淡路和子、大山顕【58 期】原田長政【62 期】大高忠勉【63 期】
 福本円【67 期】小野立【75 期】小松かおり、小松佳徳 以上合計 182 名

編集後記

今年もたくさんの方のみなさまに会報制作にご協力いただきま
 して、誠にありがとうございました。予想以上に投稿が充実
 したため、昨年までの会報よりページを増やして、全 20 ペ
 ージとしました。これまで読むだけだったみなさまも、来年は
 ご参加をお待ちしております。

この会報をきっかけとして、総会をはじめとした今後の同
 窓会の交流に役立てていただければ幸いです。

（会報制作委員会）

能代高校東京同窓会 会報 第 18 号

発行日 平成 20 年 9 月 1 日

発行 能代高校東京同窓会

発行責任者 太田勝治

編集 会報制作委員会

印刷 大森太田印刷株式会社

■東京同窓会事務局

東京都大田区大森西 2-15-21

大森太田印刷（有）内

〒143-0015

電話 03-3765-1779 FAX 03-3766-1228

郵便払込口座番号 00150-7-27459